

## 究極の危機管理から自動運転カー体験まで 第11回パワーアップセミナー報告

### 震災当日の教習所は？そして一番の敵は風評被害

タイヘイドライバーズスクール 副管理者・部長 吉田 宏

#### 150名の教習生とともに震度6を体験。2週間に及んだ断水との戦い



津波で9割の魚が死滅したアクアマリン

3月11日14時46分、福島県いわき市は震度6。当校はインターバルの時間で、通学・合宿生あわせて約150名の教習生がいました。教習はすぐ中止し、保護者と連絡がとれた通学生から帰宅させました。幸いな事に合宿舎は被害なく無事。ただしこの時から2週間、断水との戦いが始まります。スタッフは直ちに3日分の食料と毛布、軍手などの調達を開始。結局、保護者が迎えにきた教習生の最後の1人が帰ったのは夜8時。外は雪でした。

#### 通常2時間の道を12時間かけ、合宿生70名を自力でつくば市へ

つくばエクスプレス運転再開の情報が入り、「送迎バスで合宿生をつくば市まで送ろう」という事になりました。13日12時30分、総勢70名バス5台でつくばに向けて出発。11日の時点で観光バスは全て押さえられていたため、有志スタッフによる自力の送迎となりました。道路はひどい状態の上、大渋滞。途中、問題となっていた女子のトイレはスタッフが国道沿いの店舗に頼んでまわり、ようやく1軒、チェーン店のうどん屋さんでお借りできました。また、途中立ち寄ったコンビニの店長さんに道を教わり、大渋滞を回避できたことも。普通は2時間のところ、12時間30分かかって、つくば市に到着。なんとか最終2本前の電車に合宿生全員を乗せる事ができました。

#### 「タイヘイの教習車を町で見た。ありがとう」の声にパワーをもらって

営業再開まで「就職に間に合わない」などの苦情もありましたが、3月27日から教習を再開し「タイヘイの教習車を町で見た。ありがとう」という声にパワーをもらいました。震災後の合宿生は2011年夏は前年の25%、2013年6月現在で80%まで戻っています。現在、当校に来てくださる合宿生は「被災地で免許を取る事が支援になる」「被災地を自分の目で見て、何ができるか考える」など目的意識を持っており、当校では希望者に被災地見学も実施しています。

#### 一番の敵は風評被害だった

代表取締役 高萩 阿都志

震災が起こって、政府の発表、病院や役所の対応など悔しい思いをした事は数えきれません。最も困ったのは風評被害です。「30km圏内は人が住めない」というメッセージが福島第1原発の映像とともにメディアで3ヶ月、流れました。また、著名人もこぞって持論を展開。正しいものも間違ったものもありましたが、表現のしかたであたかも福島のが全てが危険であるかのような印象を与えるものが多々ありました。結局は自力でなんとかしなければと実感し、これまでの事業に加え、需要の多い軽自動車の販売も開始しました。私は今後もいわきに根を張り、仕事を通していわきを復興させていこうと覚悟を決めました。今後ともいわきへのご支援、よろしくお願い致します。

### パワーアップセミナーに参加して

#### 手に汗握る臨場感、震災と復興の真実

海田自動車学校 代表取締役社長 小川佳浩

「信じれない！ありえない！」それは言葉にできないほど張り詰めた被災地の状況よりも、タイヘイドライバーズスクール高萩社長の復興にかける思いの強さ、ピンチをチャンスに変える行動力、非常事態での冷静な判断力に対する、私の率直な感想です。震災にあまつさえ原発事故、更に風評被害の続く中、事業を再開、継続、発展と、屹立とした偉大な経営者の言葉は、手に汗握る臨場感と共に、私の胸に迫ってきました。



### 知能を持った運転ロボット・自動運転カーの時代は来るか？！

金沢大学 理工研究域 講師 菅沼 直樹

#### 自動運転を可能にする3つの機能とは

自動運転システムとは究極の運転支援システムであり、車自身が知能を持ち、無人走行も可能となるものです。これにより「事故の削減」「車間距離短縮による交通容量の増加」「視覚障害者の運転補助」などが可能になります。私の研究室では自動運転システムに必要な不可欠な3つの機能を同時に研究開発しています。

**1、周辺環境を認識する技術：**信号、歩行者、他の車など、周辺に何があり、どんな動きをするかを認識する。これは自動運転システムでは最も重要な技術ですが、実は人はこれを瞬時に判断しています。車の天井と前方にセンサーをつけ、周囲360°の環境を把握します。

**2、自己位置推定：**車自身がどこにいるか、どんな姿勢をとっているかを、GPSと道路の白線を検出するセンサーとで正確に読み取ります。

**3、走行軌道生成と誘導：**どのように走れば安全に目的地へ到着できるのか。デジタル地図(カーナビに道幅や車線数、制限速度など情報を加えたもの)をもとにプランニングし、さらにどこで車線変更をしたらいいかなど、運転の最適化を図ります。3つの機能がきちんと働いて初めて自立型の自動運転が実現できるのです。

#### 教習コースを使つての走行実験で次の展開へ

日本は欧米に比べ規制が厳しく、自動運転カーで公道を走る事は不可能に近かったのですが、安倍総理は自動運転カーの開発に前向きで、特区を作って研究を進めるという案も出ているそうです。今年1月よりコヤマ交通教育様のご紹介で、金沢東部自動車学校様のコースをお休みの日にお借りできる事になり、現在、走行実験のための測量が完了したところです。これからも、研究・走行実験に加え、自立型の自動運転カーの安全性と、事故の削減に役立つという事を、デモンストレーションを通して広くアピールしていこうと考えております。

#### 「運転席に人が座れる」を合い言葉に…

技術協力/東京航空計器 事業本部技術部 長野 美紀

2011年、金沢大学の東京モーターショー出展に向け、自動運転カーのメカトロニクスの技術協力を致しました。ステアリング、ブレーキ、シフトなどにモーターをつけるのですが、欧米の自動運転カーでは機械が場所を取り、運転席が使えない状態が普通です。「運転席に人が座れるものを作ろう」を合い言葉にコンパクトに設計しました。

また当社は教習所様向けにブレーキ試験計測システムなど手がけております。お手伝いできる事がありましたら、ぜひご連絡ください。

#### 講演後は、約60名の方が自動運転カーに試乗されました

運転席には講演者の菅沼先生が座りましたが、ハンドルにはノータッチ。コース内に停車中の車を自動で避けたり、スピードを落としてコースを変えるなど、鮮やかな自動運転ぶりを披露して頂きました。



#### 笑い声が会場に響いた名刺交換会と懇親会

講演終了後は名刺交換会とお楽しみの懇親会。恒例の轟会(コヤマドライビングスクールで長期研修を受けた教習所二世の会)による交通〇×クイズには1等テーブル全員に5千円、2等は今回の講演者タイヘイドライバーズスクール高萩社長よりご提供頂いた「献上粕でい羅」が追加され、熾烈な争奪戦に!当社営業スタッフの手話ユニットによる「虹」と「Fly away」の2曲には盛んな拍手が贈られて、盛況のうちに幕を閉じました。